

5/26 茶草場農法の継承と発展に貢献

令和3年世界農業遺産「静岡の茶草場農法」推進協議会が開催されました

静岡県庁で世界農業遺産「静岡の茶草場農法」知事顕彰式が行われ、県内で1団体2個人が受章し、本町からは、土屋鉄郎さん(つちや農園)が顕彰状を授与されました。

土屋さんは、保有する全ての茶園を茶草場農法で栽培し、茶草場用のススキの生育にあわせて草刈時期を選択したり、絶滅危惧種を含む生物多様性の保全を行ったりなど精力的に取り組んでいます。

式典で土屋さんは、お茶づくりへのこだわりや今後の茶草場農法の発展について期待を込めて力強く話しました。



川勝県知事(左)から顕彰を受けた土屋さん(中央左)

おっきな梅がたくさん採れたよ♪ 5/26

桜保育園の園児が梅の収穫を体験!



「やっととれた!」手をいっぱい伸ばす男の子

長島ダムふれあい館の展望広場で、桜保育園の年長の園児たちが梅の収穫作業を行いました。

昨年、霜の被害に見舞われて収穫できなかった同館広場の梅。今年は大ぶりの実がたくさん実り、園児たちは大喜びで「誰が一番とれるか競争!」と「びく」がいっぱいになるほど集めていました。

この日、園児たちが収穫した梅は1時間足らずで約8kg。保育園に持ち帰り、夏バテ予防のために、梅干しにしたり梅ジュースにしたりして、振る舞われるそうです。

6/3・4 新鮮なアマゴを捕まえ、さばいて、実食!

命の大切さを学ぶ「アマゴのつかみ取り体験」なかよし自然学校で開催

中川根南部小学校でなかよし自然学校が行われ、接岨峡ウォークラリーをするなどして、町の文化や自然に触れる体験をしました。

3日、久野協区の坂本政司さんが養殖しているアマゴ80匹が提供され、つかみ取りを体験。児童は元気に泳ぎ回る魚を必死に追いかけ、苦戦しながらも「やったー!」と歓声を上げて捕まえていました。

その後、児童は自らアマゴをはさみでさばき、坂本さんに炭火で焼いてもらうと、「美味しい!」と笑顔で口いっぱい頬張っていました。



捕まえたアマゴをはさみで慎重にさばく

6/6 夏の大会を目指して

今年度発足した奥大井パドリングクラブ・アスリートチームに所属する小中学生が、7月と8月に行われる全国大会を目指して、4月から練習を重ねています。

この日、選手たちは同クラブ会長の大村敏正さんとヘッドコーチの大村真澄さんの指導の下、パドルを扱うフォームと身体の強化を主体とした練習を行いました。会長とヘッドコーチから「今の時間を大切に、練習の質を上げていこう」と鼓舞されると、力強くパドリングしていました。

全国大会は小学生が7月に山梨県の精進湖で、中学生は8月に山形県の月山湖で開催が予定されています。



選手たちは大会を目指して日々練習に励んでいます

茶業の現状を知るきっかけに 6/9

町内小中学校へ新茶の一煎茶パックを配布



高畑会長(右)が永野利晴校長会会長に一煎茶パックを手渡す

町農業経営振興会は、川根茶に対する関心や理解を促すために、町内の小中学校に新茶の一煎茶パックを配布しました。

この日、中川根第一小学校で行われた校長会で同振興会の高畑裕会長は「子供たちに美味しいお茶を飲んでもらい、少しでも茶業の現状を知るきっかけになれば」と話し、永野利晴校長会会長に新茶を手渡しました。

配布された一煎茶パックには、児童生徒が自宅で気軽に川根茶を堪能できるように、「美味しいお茶の入れ方パンフレット」が同封されています。

初夏の訪れ告げる…はかない光

5月中旬から6月上旬にかけて、長島公園(接岨区)やときどんの池(徳山区)に流れる小川でホタルが舞い、町内外から多くの方が鑑賞に同生息地を訪れました。

接岨峡大吊り橋の下では、家族連れらが固唾を飲んでホタルの出現を待つと、無数のホタルが一斉に川の水面を行き交い、幻想的に闇夜の中を乱舞しました。

藤枝市から訪れた男性は「毎年、接岨峡のホタルが楽しみで見に来ている。少しずつ夏の訪れを感じる」と笑顔で話しました。



長島公園のホタルの乱舞